

(別記)

## 福祉サービス第三者評価結果公表事項（乳児院）

### ①第三者評価機関名

社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会

### ②施設名等

名称：松山乳児院	種別：乳児院
施設長氏名：村上 眞實	定員：40名
所在地：松山市久万ノ台 173 番地 TEL 089-922-9720	

### ③実施調査日

平成26年1月21日（火）～1月22日（水）

### ④総評

#### ◇特に評価が高い点

昭和28年3月、社会福祉法人コイノニア協会の「松山乳児預り所」として松山市清水町に開設され、同年12月、認定をうけて「松山乳児院」に名称変更、昭和41年11月に松山市久万ノ台に移転し現在に至っている。平成16年、現在の園舎を新築。同22年にはショートステイスペースの増改築工事を行っている。敷地内に同法人が運営する保育所や夜間保育所があり、交流も行われている。

キリスト教信仰に基づいた養育理念で、乳児の最善の利益を守るため、各種マニュアルを整備し、職員は高い意識を持って養育にあたっている。

#### ◇改善が求められる点

地域の理解と支援をより積極的に取り入れ、社会に開かれた施設として、機能を地域に還元していくことを望みたい。また、家庭生活に近い小規模グループ化移行への検討、保護者への計画的な支援、外部監査の導入等への取組みを期待したい。

### ⑤第三者評価結果に対する施設のコメント

今回の評価を受けて、改めて松山乳児院の事業内容を客観的に見つめなおせたことは幸いでした。

改善点のご指摘につきましては、今後の課題として前向きに取り組んでいきたいと思っております。

### ⑥第三者評価結果（別紙）

## 第三者評価結果（乳児院）

### 1 養育・支援

(1) 養育・支援の基本	第三者評価結果
① 子どものころによりそいながら、子どもとの愛着関係を育てている。	a・b・c
② 子どもの遊びや食、生活体験に配慮し、豊かな生活を保障している。	a・b・c
③ 子どもの発達を支援する環境を整えている。	a・b・c
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>担当養育制を採用し、養育マニュアルを踏まえたケア内容チェック表によって、指導計画を見直し、子どもの発達を支援している。</p> <p>今後は、異年齢の乳幼児が混在する縦割り保育の導入等、より積極的な処遇の工夫が望まれる。</p>	
(2) 食生活	第三者評価結果
① 乳幼児に対して適切な授乳を行っている。	a・b・c
② 離乳食を進めるに際して十分な配慮を行っている。	a・b・c
③ 食事がおいしく楽しく食べられるよう工夫している。	a・b・c
④ 栄養管理に十分な注意を払っている。	a・b・c
(3) 衣生活	
① 気候や場面、発達に応じた清潔な衣類を用意し、適切な衣類管理を行っている。	a・b・c
(4) 睡眠環境等	
① 乳幼児が十分な睡眠をとれるように工夫している。	a・b・c
② 快適な睡眠環境を整えるように工夫している。	a・b・c
③ 快適な入浴・沐浴ができるようにしている。	a・b・c
(5) 発達段階に応じた支援	
① 乳幼児が排泄への意識を持てるように工夫している。	a・b・c
② 発達段階に応じて乳幼児が楽しく遊べるように工夫している。	a・b・c
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>クラス別にデイリープログラムを作成し、栄養士や調理員も食事の介助に加わることによって、発育状況や体調を考慮した食事の工夫がなされ、給食内容検討会も定期的実施されている。</p> <p>毎食後の歯磨きやうがいの習慣づけ、衣類の完全な個別化、職員と共に入浴する回数の増加、夜勤帯の方が一事故防止に向けて一人飲みさせない工夫など、より一層の検討が望まれる。</p>	

(6) 健康と安全	第三者評価結果
① 一人一人の乳幼児の健康を管理し、異常がある場合には適切に対応している。	Ⓐ・b・c
② 病・虚弱児等の健康管理について、日常生活上で適切な対応策をとっている。	Ⓐ・b・c
③ 感染症などへの予防策を講じている。	Ⓐ・b・c
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>各クラスに常設のカーデックス（個別ファイル）によって、乳児の日々の健康状態を把握し、呼吸確認のためのベビーセンサーも導入している点は高く評価できる。</p> <p>また、保健マニュアルや感染症対応マニュアルは整備され、処遇会議を通して職員が知識を習得するよう努力を重ね、健康や安全管理に努めている。</p>	

(7) 心理的ケア	第三者評価結果
① 乳幼児と保護者に必要な心理的支援を行っている。	a・Ⓑ・c
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>臨床心理士を配置し、心理マニュアルに沿って被虐待児等心理的支援を必要とする乳幼児への個別心理療法等を行っている。</p> <p>今後は、支援の必要な保護者へのプログラムの作成によって、親子関係の構築、心理的な援助が行われることを期待したい。</p>	

(8) 継続性とアフターケア	第三者評価結果
① 措置変更又は受入れを行うに当たり、継続性に配慮した対応を行っている。	Ⓐ・b・c
② 家庭引き取りに当たって、子どもが家庭で安定した生活を送ることができるよう家庭復帰の支援を行っている。	Ⓐ・b・c
③ 子どもが安定した生活を送ることができるよう退所後の支援を行っている。	a・Ⓑ・c
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>家庭引取りや施設変更に際して措置機関との連携は取れており、保護者との信頼関係を築きスムーズに対応できるよう努めている。</p> <p>アフターケアについては、基本的には児童相談所の判断に委ねているため、計画的な支援体制づくりが望まれる。</p>	

## 2 家族への支援

(1) 家族とのつながり	第三者評価結果
① 児童相談所と連携し、子どもと家族との関係調整を図ったり、家族からの相談に応じる体制づくりを行っている。	Ⓐ・b・c
② 子どもと家族の関係づくりのために、面会、外出、一時帰宅などを積極的に行っている。	Ⓐ・b・c

(2) 家族に対する支援	
① 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	Ⓐ・b・c
(特に評価が高い点、改善が求められる点)	
<p>家庭支援専門相談員を独立した専門職の2名体制とし、個々に応じて即時対応できるようにしている。</p> <p>定期的な外出や面会一時帰宅を設定し、院内の親子生活訓練室の活用によって保護者の養育意欲を高めるための支援を望みたい。</p>	

### 3 自立支援計画、記録

(1) アセスメントの実施と自立支援計画の策定	第三者評価結果
① 子どもの心身の状況や、生活状況を把握するため、手順を定めてアセスメントを行い、子どもの個々の課題を具体的に明示している。	Ⓐ・b・c
② アセスメントに基づいて子ども一人一人の自立支援計画を策定するための体制を確立し、実際に機能させている。	Ⓐ・b・c
③ 自立支援計画について、定期的実施状況の振り返りや評価と計画の見直しを行う手順を施設として定め、実施している。	Ⓐ・b・c
(2) 子どもの養育・支援に関する適切な記録	
① 子ども一人一人の養育・支援の実施状況を適切に記録している。	Ⓐ・b・c
② 子どもや保護者等に関する記録の管理について、規程を定めるなど管理体制を確立し、適切に管理を行っている。	Ⓐ・b・c
③ 子どもや保護者等の状況等に関する情報を職員が共有するための具体的な取組を行っている。	Ⓐ・b・c
(特に評価が高い点、改善が求められる点)	
<p>定期的に行う発達検査の結果に基づき、現在の状況と課題、具体的な目標を明記し、それに基づいて自立支援計画書は作成され、評価・見直し等の手順を定めている。ケースカンファレンスを通して、全職員への周知が行われている。</p>	

### 4 権利擁護

(1) 子どもの尊重と最善の利益の考慮	第三者評価結果
① 子どもを尊重した養育・支援についての基本姿勢を明示し、施設内で共通の理解を持つための取組を行っている。	Ⓐ・b・c
② 社会的養護が子どもの最善の利益を目指して行われることを職員が共通して理解し、日々の養育・支援において実践している。	Ⓐ・b・c
③ 子どものプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備し、職員に周知するための取組を行っている。	Ⓐ・b・c
(2) 保護者の意向への配慮	
① 保護者の意向を把握する具体的な仕組みを整備し、その結果を踏まえて、養育・支援の内容の改善に向けた取組を行っている。	a・Ⓑ・c

(特に評価が高い点、改善が求められる点)

子どもの権利擁護については、虐待対応マニュアルを作成し、施設内で勉強会を実施し、ケアチェック表によって養育に対する姿勢が前向きに捉えられている。

保護者の意向把握は困難な状況であり、十分な聞き取りはできていないが、個別面談聴取から前進していくことが望まれる。

(3) 入所時の説明等	第三者評価結果
① 保護者等に対して、養育・支援の内容を正しく理解できるような工夫を行い、情報の提供を行っている。	a・b・c
② 入所時に、施設で定めた様式に基づき養育・支援の内容や施設での約束ごとについて保護者等にわかりやすく説明している。	a・b・c
(4) 保護者が意見や苦情を述べやすい環境	
① 保護者が相談したり意見を述べたりしたい時に相談方法や相談相手を選択できる環境を整備し、子どもに伝えるための取組を行っている。	a・b・c
② 苦情解決の仕組みを確立し、保護者等に周知する取組を行うとともに、苦情解決の仕組みを機能させている。	a・b・c
③ 保護者等からの意見等に対して迅速に対応している。	a・b・c
(5) 被措置児童等虐待対応	
① いかなる場合においても体罰や子どもの人格を辱めるような行為を行わないよう徹底している。	a・-・c
② 子どもに対する暴力、言葉による脅かし等の不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	a・b・c
③ 被措置児童等虐待の届出・通告に対する対応を整備し、迅速かつ誠実に対応している。	a・b・c
(特に評価が高い点、改善が求められる点)	
施設を紹介する資料は理解しやすい内容であり、保護者への説明も具体的である。乳児への不適切な関わり防止のため、虐待対応マニュアルは整備され、援助技術を習得するための研修によって、迅速な対応がされている。	
苦情解決の仕組みは確立されている。	

## 5 事故防止と安全対策

	第三者評価結果
① 事故、感染症の発生時など緊急時の子どもの安全確保のために、組織として体制を整備し、機能させている。	a・b・c
② 災害時に対する子どもの安全確保のための取組を行っている。	a・b・c
③ 子どもの安全を脅かす事例を組織として収集し、要因分析と対応策の検討を行い、子どもの安全確保のためにリスクを把握し対策を実施している。	a・b・c

(特に評価が高い点、改善が求められる点)

緊急時対応マニュアルを作成し、職員が少ない夜間に避難訓練を実施して動きを確認する等、日頃から非常時に備えている。過去の具体例を収集・検討することによって新人職員にも気づきを促すようになっており、警備会社と業務委託契約を結んで安全確保の体制を整えている。

## 6 関係機関連携・地域支援

(1) 関係機関等の連携	第三者評価結果
① 施設の役割や機能を達成するために必要となる社会資源を明確にし、児童相談所など関係機関・団体の機能や連絡方法を体系的に明示し、その情報を職員間で共有している。	a・b・c
② 児童相談所等の関係機関等との連携を適切に行い、定期的な連携の機会を確保し、具体的な取組や事例検討を行っている。	a・b・c
(2) 地域との交流	
① 子どもと地域との交流を大切にし、交流を広げるための地域への働きかけを行っている。	a・b・c
② 施設が有する機能を地域に開放・提供する取組を積極的に行っている。	a・b・c
③ ボランティア受入れに対する基本姿勢を明確にし、受入れについての体制を整備している。	a・b・c
(3) 地域支援	
① 地域の具体的な福祉ニーズを把握するための取組を積極的に行っている。	a・b・c
② 地域の福祉ニーズに基づき、施設の機能を活かして地域の子育てを支援する事業や活動を行っている。	a・b・c
(特に評価が高い点、改善が求められる点)	
<p>ショートステイ事業の充実が見られ、防災拠点としても地域のニーズに応じている。ボランティア担当職員を置き、受け入れに対する基本姿勢も明確になっている。今後は、地域で育児に関する講習会を開催する等、施設の専門性を生かした取組みを期待したい。</p>	

## 7 職員の資質向上

	第三者評価結果
① 組織として職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。	a・b・c
② 職員一人一人について、基本姿勢に沿った教育・研修計画が策定され計画に基づいて具体的な取組が行われている。	a・b・c
③ 定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行い、次の研修計画に反映させている。	a・b・c
④ スーパービジョンの体制を確立し、施設全体として職員一人一人の援助技術の向上に努めている。	a・b・c

(特に評価が高い点、改善が求められる点)

施設内研修を2か月に1回、定期的に行っている。

また、施設外研修は職員の希望を確認の上、経験年数にあわせた段階的な研修計画が設定されており、職員会議や書面等で研修内容を報告し情報の共有化を図っている。

## 施設の運営

(1) 運営理念、基本方針の確立と周知	第三者評価結果
① 法人や施設の運営理念を明文化し、法人と施設の使命や役割が反映されている。	a・b・c
② 法人や施設の運営理念に基づき、適切な内容の基本方針が明文化されている。	a・b・c
③ 運営理念や基本方針を職員に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	a・b・c
④ 運営理念や基本方針を保護者等に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	a・b・c
(2) 中・長期的なビジョンと計画の策定	
① 施設の運営理念や基本方針の実現に向けた施設の中・長期計画が策定されている。	a・b・c
② 各年度の事業計画は、中・長期計画の内容を反映して策定されている。	a・b・c
③ 事業計画を、職員等の参画のもとで策定されるとともに、実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われている。	a・b・c
④ 事業計画を職員に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	a・b・c
⑤ 事業計画を保護者等に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	a・b・c
(特に評価が高い点、改善が求められる点)	
運営理念、基本方針が明文化され、分かりやすく記載されていて、月1回のたより「おおきなあれ」で保護者にも紹介している。事業計画も中・長期計画を反映して策定しており、職員も内容を理解している。	
今後は、機会を捉えて保護者に直接説明する時間を設ける等、十分な理解を促す取組みを期待したい。	

(3) 施設長の責任とリーダーシップ	第三者評価結果
① 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して明らかにし、専門性に裏打ちされた信念と組織内での信頼をもとにリーダーシップを発揮している。	a・b・c
② 施設長自ら、遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行い、組織全体をリードしている。	a・b・c
③ 施設長は、養育・支援の質の向上に意欲を持ち、組織としての取組に十分な指導力を発揮している。	a・b・c
④ 施設長は、経営や業務の効率化と改善に向けた取組に十分な指導力を発揮している。	a・b・c

<b>(4) 経営状況の把握</b>	
① 施設運営をとりまく環境を的確に把握するための取組を行っている。	Ⓐ・b・c
② 運営状況を分析して課題を発見するとともに、改善に向けた取組を行っている。	Ⓐ・b・c
③ 外部監査（外部の専門家による監査）を実施し、その結果に基づいた運営改善が実施されている。	a・b・Ⓒ
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>施設長は、院内会議に積極的に参加して、様々な情報を収集し現場や運営の課題の把握に努めるとともに、子どもの処遇向上に努めている。</p> <p>現在導入していない外部監査については、今後、実施について検討を望みたい。</p>	

<b>(5) 人事管理の体制整備</b>	第三者評価結果
① 施設が目標とする養育・支援の質を確保するため、必要な人材や人員体制に関する具体的なプランが確立しており、それに基づいた人事管理が実施されている。	Ⓐ・b・c
② 客観的な基準に基づき、定期的な人事考課が行われている。	Ⓐ・b・c
③ 職員の就業状況や意向を定期的に把握し、必要があれば改善に取り組む仕組みが構築されている。	Ⓐ・b・c
④ 職員処遇の充実を図るため、福利厚生や健康を維持するための取組を積極的に行っている。	Ⓐ・b・c
<b>(6) 実習生の受入れ</b>	
① 実習生の受入れと育成について、基本的な姿勢を明確にした体制を整備し、効果的なプログラムを用意する等積極的な取組をしている。	Ⓐ・b・c
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>人事考課は法人の規定に基づいて年2回実施し、業務の効率化に向けて、加算対象専門職の採用を実施している。職員へのフィードバック等具体的方策は示され、職員の就業状況も定期的にチェックしている。</p> <p>実習生対応マニュアルに基づいて、実習生の受け入れを実施し、プログラムや受入体制も整備している。将来の幅広い職種の実習生受け入れに向けて、さらに体制の整備を期待したい。</p>	

<b>(7) 標準的な実施方法の確立</b>	第三者評価結果
① 養育・支援について標準的な実施方法を文書化し、職員が共通の認識を持って行っている。	Ⓐ・b・c
② 標準的な実施方法について、定期的に検証し、必要な見直しを組織的に実施できるよう仕組みを定め、検証・見直しを行っている。	Ⓐ・b・c
<b>(8) 評価と改善の取組</b>	
① 施設運営や養育・支援の内容について、自己評価、第三者評価等、定期的に評価を行う体制を整備し、機能させている。	Ⓐ・b・c
② 評価の結果を分析し、施設として取り組むべき課題を明確にし、改善策や改善実施計画を立て実施している。	Ⓐ・b・c

(特に評価が高い点、改善が求められる点)

施設長・幹部職員等を中心として、各種のマニュアル等を整備し、職員が必要に応じて閲覧できるようにするとともに、施設内研修や各種会議において理解度・習得度の向上に努め、定期的に評価を行う体制作りを努めている。また、施設運営の課題について、全職員が検討する場を設け改善に取り組んでいる。